



ばらばらで一緒

～美香保中だより～

発行 札幌市立美香保中学校

住所 東区北17条東6丁目1-1

電話 (011)-711-8151

第75回 卒業証書授与式 式 辞

校長 伊達 峰史

雪解けも進み、木々の蕾は確実に春に向けてふくらみ始めています。この春の佳き日に、美香保中学校を巣立っていく73名の三年生の皆さん、御卒業おめでとうございます。心から祝福いたします。

また本日は、PTA会長様をはじめ、学校評議員、地域や町内会の皆様、美香保小学校、北光小学校の校長先生など多くの御来賓の皆様、並びに保護者の皆様の御臨席を賜り、このように盛大に、第75回卒業証書授与式を行えますことを心より感謝申し上げます。

卒業生の皆さんが学校祭の時に制作した壁画の前で、ただいま一人一人に卒業証書を授与いたしました。手渡した卒業証書は、皆さんが中学校の課程を立派に修了したことを証するものであり、義務教育の締めくくり3か年の努力の成果がしっかりと修められた大変重みのあるものです。凜とした空気の中、卒業証書を受け取る皆さんの、若く透き通った眼差しや、こうして私の話を聴いている真摯な姿勢に頼もしさを感じます。それは、皆さんが、「感謝の心」「仲間と共に粘り強く挑んできた過程」を胸に深く刻んでいるからだと思います。

卒業生の皆さん、改めて、今までの中学校生活、いや、人生を振り返ってみてください。親に命を授かってからというもの、あなたは多くの人に守られ、支えられ、愛情をそそがれて今ここにいます。与えられた多くの幸せによって今ここにいるのです。

そう考えた時、「生きる」とは、生かされてきた結果だと思いませんか。「ああ、今ここに自分が存在するのは、家族、先生、友達、誰々のおかげ。」と、「感謝の心」が湧いてきませんか。それこそあなたが今日この卒業式で表現する〈ありがとう〉なのだと思います。そんな「感謝の心」を真に抱くことができた時、その分あなたは心が強く、たくましくなります。なぜならその時とは、今まで自分を生かしてくれた人の思いが自分の大きな力になった時だからです。やがてその力は人を生かす力となります。そういう力がもうあなたにはあるのです。

後輩たちにバトンとして残してくれたものはたくさんありますが、その最たるものは、自分たちの思いや願いを自ら表現していく「自治的な活動」そのものだと私は感じています。皆さんとは、たった1年の出会いでしたが、この間、私は、皆さんが創り出す一体感からたくさんの感動をもらいました。この一体感は、外見も、性格も、考え方もそれぞれ違う皆さんが、「自治的な活動」を通して、お互いに本気で向き合い、共に粘り強く挑んできた証と言えます。

皆さんが、圧巻の歌声を響かせた合唱コンクールで、最後に私はこう伝えました。「真の金賞は3月に決まります。3月、最後に、みんなが、『あなたと出逢えて良かった。』『この学級で良かった。』『この学年で良かった。』『美香保中で良かった。』と、そう思えたら、その時こそ、真の金賞を手に入れた時です。」

皆さんにとって、「仲間と共に粘り強く挑んできた過程」のピークはまさしく今日です。皆さんの頼もしい姿から、一人一人の心の中に真の金賞が輝いているものと、私は確信しています。

「新たな夢を探しに行こう 僕らの旅はまだまだ続く」

これは、学校祭で皆さんが創り上げた演劇「夏休み～星に願いを」の最後のセリフです。

まさしくこれから、新たな人生の旅を続ける皆さんに、はなむけの言葉を贈ります。

「上善は水の如し」これは、中国の哲学者“老子”が残した言葉です。老子は、水には学ぶことのできる三つの性質があると説いています。一つ目は、水には器に逆らうことなく形を変える〈柔軟さ〉があるということです。二つ目は、低いところに身を置くのは誰でも嫌なものですが、水には低いところに流れていく〈謙虚さ〉があるということです。そして、三つ目は、水には、〈秘めたるエネルギー〉があるということです。穏やかな流れは、人の心を癒す力をもっているし、また速い流れは、硬い岩をも砕く力強さをもっています。

皆さん、水のように、「しなやかな強さ」を発揮して、自分や社会の未来を切り拓いていってください。

結びになりますが、保護者ならびに御家族の皆様、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。皆様の愛情は、間違いなくお子様に通じ、今日、立派に義務教育を修了することができました。これからは、大人の社会に一步ずつ確実に近付いてまいります。温かく見守っていただくとともに、最も身近な大人として、また、人生のよき先輩として更なる御助言をこれからもよろしく願いいたします。

私どももいつまでもお子さまの健やかな成長を願い、ずっと応援団であり続けたいと思っております。保護者の皆様、そして地域の皆様に、今後も本校の教育に一層の御理解と御協力を重ねてお願い申し上げます。

送 辞



第76期 生徒会会長 佐倉 陽奈

冬の寒さもようやく和らぎ、春の訪れとぬくもりを感じる季節となりました。

本日、美香保中学校を卒業される三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生代表として、心よりお祝い申し上げます。

私達が先輩方と過ごした二年間。先輩方にとっては、あっという間だったと思います。私達にとってもあっという間であり、先輩方と過ごした学校生活は時間の流れを忘れてしまうほど楽しく、色鮮やかで、充実したものでした。

先輩方から学ばせてもらったことは、数え切れないほどありますが、特に印象に残っているのは、先輩方にとって最後でもあった今年度の合唱コンクールです。あの時、一振り一振りに想いを込めていた指揮者の姿や、一つ一つの音を丁寧に弾いていた伴奏者の姿、ともに練習してきた仲間との絆を信じて美しい歌声を響かせていた先輩方の姿は数ヶ月たった今でも鮮明に思い出されます。その姿を実際に見た時には、「超えられない壁」だと心から圧倒されました。一人一人がああ場で想いを重ね、自信をもって歌声を響かせる様子は、まさに先輩方の3年間の集大成でもあったと感じました。

ただ合唱コンクールだけではなく様々な場面で、この一年間は最高学年としてのプレッシャーは大きかったのではないのでしょうか。そんな中、自分がやるべきことをしっかりと果たし、時には、自分だけではなく仲間を思いやり、仲間と一緒に成長し、美香保中学校を大きく発展させていった先輩方には、言葉にしきれないほどの感謝の気持ちで一杯です。三年間、先輩方が積み上げてきた美香保中学校の伝統と文化は、決して途絶えさせてはいけないものです。もう先輩方と一緒に美香保中学校を築きあげていくことができないのはとても悔しく残念なものです。また心のどこかには、「先輩方ともう少し一緒に過ごしたい」という気持ちがあります。けれど、次は私達が、今まで先輩方を見せてくれたように、明るく一人一人が輝く美香保中学校にしていくことを約束し、先輩方の想いをこれからの美香保中学校に繋いでいきます。

これから先輩方はこの美香保中学校という場を離れ、それぞれの環境でまた活躍して行くことと思います。これから歩いていく道の途中、何かあった時に思い出してほしいことがあります。行事で嬉しさを分かち合ったあの日、部活動で悔しさを学んだあの日、仲間と笑いあったあの日、どんなときでもいいんです。美香保中学校で過ごした一日、一分、一秒は、きっと強い味方となり、如何なる時も、先輩方を支えてくれると思います。先輩方が新たな場所でも美香保中学校で培った、何にも負けない粘り強さと温かい優しさ、そして勇気を信

じて、それぞれの道を歩いていくことを、一、二年生一同、心から願っております。

最後になりますが、卒業生の皆様のご健康と、ますますのご活躍をお祈りし、送辞とさせていただきます。

答 辞



卒業生代表 青野 昇平

暖かい陽の光が降り注ぎ、春の訪れを感じる今日、私たちは卒業の日を迎えました。本日は、私たち卒業生のために、このような素晴らしい卒業式を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、お忙しい中ご出席くださいましたご来賓の方々、先生方、保護者の皆様、在校生の皆さんに、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

私たち卒業生は、今日、中学校生活に一区切りをつけ、新たな一步を踏み出そうとしています。期待と不安で気持ちが渦巻いていた入学式の日から、今日までの三年間を振り返ると、数え切れないほどの思い出が蘇ります。

入学当初は新しい環境に慣れることができず、戸惑ったり、立ち止まったりする日々もありました。そんな時に、先生方や先輩方から温かい言葉をかけていただいたり、的確なご指導していただいたりしたことが強く記憶に残っています。その時は大きな存在でしかなかった先輩方の背中が、私たちの目指す姿、進むべき道となりました。

私達の中学校生活は、新型コロナウイルスの影響をあまり受けることなく過ごすことができました。旅行的行事では、三年間天候に恵まれたこともあり、仲間とともに貴重な経験をしたり、歴史や文化を学んだり、かけがえのない思い出がたくさんできました。特に三年生の修学旅行では、六時間半の自主研修や、平泉での貴重な体験、美しい景色に感動した猊鼻溪での舟下り、そして何より、仲間と一緒に笑顔で過ごした三日間が、今でも昨日のことのように思い出されます。

学年の仲間と協力し、アイディアを出し合い、自分たちなりの作品や発表を創り上げた学校祭。最後となった今年の学校祭では、私たちの想いや願いが詰まった最高の作品や発表を創り上げることができました。難しいテーマに挑戦し、迫真の演技はもちろん、ダンスやバンドなども取り入れた感動のステージ発表。細かな作業を粘り強くやり続け、修学旅行の思い出の一コマを再現した壁画。三年間の集大成となった今年の学校祭は、自分達の

想いを伝え、後輩たちの記憶にも刻まれるであろう、渾身の発表、作品にすることができました。学級単位で取り組む唯一の行事、合唱コンクールは、学校祭以上に「最上級生」ということを意識した行事となりました。インフルエンザの影響を大きく受けた昨年度の経験を生かし、自分達が満足するだけでなく、後輩たちに魅せる合唱、聴いている人達に伝える合唱を目指して練習を続けました。合唱コンクールまでの道のりは、決して平坦なものではありませんでしたが、学年が一丸となつて作りあげた歌声は、聴いていた人たちの心に届いたのでないかと確信しています。

今年初めての取組となった「さっぽろっ子サミット」も、生徒会役員を務めていた私にとっては大きな思い出の一つです。推進委員として取り組み、大成功で終えることができた今回の活動が、今後の生徒会活動の発展に繋がっていくことを願っています。

あつという間に過ぎた三年間では、楽しいことばかりではなく、辛いことや悔しいこともたくさんありました。しかし、どんな困難と出会った時でも、仲間がいたから乗り越えることができました。仲間と交わした他愛もない会話や、仲間からかけられた励ましの言葉、仲間と過ごした何気ない日常は、自分にとってかけがえのない宝物となりました。

たくさん思い出ができ、自分達を大きく成長させてくれた中学校生活も今日で終わり、私たちは、自分達が決めた進路に向けての一步を踏み出します。

在校生の皆さん。受験生応援メッセージや心がこもった素晴らしい装飾、開花の二文字にかたどられた手書きのメッセージに加えて、動画によるメッセージなど、多くの贈りものをありがとうございます。みなさんの想いや励ましが、私たちの大きな支えとなりましたし、今後の私たちの背中を押してくれると思います。私たちは、みなさんからいただいた想いをしっかりと受け止めながら、これからの歩みを進めていこうと思っています。在校生の皆さんも、美香保中学校の歴史と伝統をさらに発展させ、今いる仲間との思い出をたくさんつくってってください。

先生方からは、勉強だけでなく、人として大切なことをたくさん教えていただきました。そして、いつも私たちのことを考えてくださり、困った時や辛い時には温かな言葉をかけてくださいました。私たちの未来を信じて、進むべき道へと導いてくださった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

これまで私たちを見守り、育ててくださった保護者の皆様。なかなか素直になれず、私たちのために思ってかけてくれた言葉も、うまく受け止めることができませんでした。それでも、どんな時でも私たちを励まし、一番そばで寄り添ってくれることが、本当に嬉しかったです。私たちはだんだん自立していき、いつかは親元を離れていきますが、もうしばらくはお世話になります。まだまだ未熟な私たちは、素直になれないこともあると思いますが、これからはいただいた愛情に応えられるように、少しずつ努力していこうと思っています。

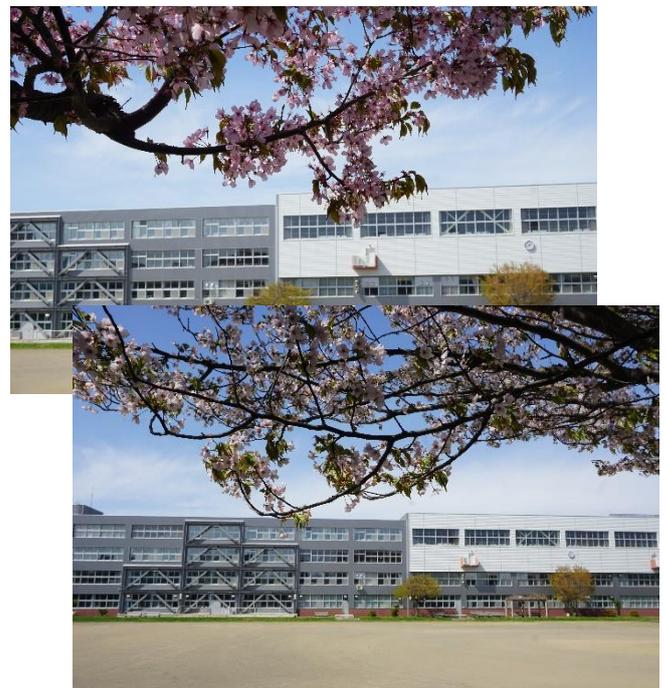
旅立ちの時が近づいて来ました。今日から私たちは、自分自身で決めたそれぞれの道へと進みます。これからの生活の中では、今まで以上の困難や壁にぶつかることがあるかもしれません。でも、この美香保中学校で仲間とともに学び、培ってきた力で必ず乗り越えることができると信じています。仲間との絆を胸に、輝く未来を信じて、一步一步進んでいきましょう。

最後になりましたが、美香保中学校のますますの発展と新たな歴史が刻まれていくことを祈念して、答辞とさせていただきます。



【卒業生学級別生徒数】

| | 1組 | 2組 | 5組 |
|-----|-----|-----|----|
| 生徒数 | 34名 | 35名 | 4名 |
| 合計 | 73名 | | |





ご卒業おめでとうございます。